

【園の教育目標】心がひろく あかるく たくましい子  
元気な子・優しい子・考える子

【令和7年度の園評価より

- ・ 基本的な生活習慣を身に付けたり、十分体を動かしたりして、心身共に丈夫で健康な子を育成する。
- ・ 職員間の連携を図りながら話し合ったり、遊びの環境や援助のあり方などを学び合ったりして資質向上を目指す。
- ・ 子ども一人一人に寄り添いながら興味関心や得意不得意を知り、発達に合わせたかかわりや環境を考慮する。
- ・ 保護者と願いを共通理解しながら子育てができるよう、情報発信をしていく機会を設ける。

4段階評価 ○保育者 ☆関係者 ●課題

観 点		短期目標	自己 評価	保護者 評価	評価及び意見の概要
保育 の育 強支・ 化え幼 る児 基教	危 機 管 理	緊急時に迅速に対応ができるよう、危機意識をもつ。	3.2	3.8	○子どもが怪我をした時は必ず園長主任に報告し、保護者対応したり第1報を送信したりするなどの確に対応することができた。 ○今年度初めて、水害訓練や引き渡し訓練ができた。また職員間でスマホを使って素早く情報を伝達したり、共通理解したりすることができた。 ○園児は園で教わった約束やルールを家庭でも話しており、子どもが命を守るための方法を身に付けつつあると感じ、保護者は安心している。 ☆誰でも自由に出入りでき、2階にも行きやすいという園の構造はメリットでもあるが、不審者対応に留意したい。 ●駐車場でトラブルや事故が起きないよう、保護者を交えて危機意識を高めたり訓練を行ったりする。
	体健 つ康 くなり	【元気な子】 保育者や友達と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。	3.5	3.9	○子ども一人一人の実態に応じた指導方法を考慮したことで、運動遊びに苦手意識がある子も楽しみながら参加する事ができた。 ○週案会で園庭や遊戯室の使用時間を決めたり、季節に合わせて園外保育や元気タイムを取り入れたりして子どもの体作りができるように工夫した。 ○たくさん走れるようになったり、苦手なことに挑戦出来るようになったりして体を使った遊びを楽しめるようになった。 ☆リトミックやリズム遊びなど心を開放することを大切に、動くことが楽しいと思える遊びを提供すると良い。 ●外部講師やアドバイザーに教えていただいたことを活動と活動の間の短い時間を利用して、継続して体作りができるよう計画を立てる。
	社 会 的 発 達	【やさしい子】 友達や異年齢とのかかわりを通して、人と関わる楽しさを味わう。	2.8	3.5	○週案会で話し合った内容をホワイトボードで視覚化したことで、大切なことが明確になり交流がしやすかった。 ○集団遊びを取り入れたり、良いこと見つけをしたりしたことで視界が広がり、関わって遊ぶ子が増えた。 ○集団生活の中で関わりが増えることで園で覚えた歌を家で歌ったり、友達の名前を言ったりして自然に語彙が増えている。 ☆人と関わる楽しさを味わうための遊びの工夫をしていくことが大事である。 ●自分の思いを自分なりに伝える力や、相手の気持ちに耳を傾ける機会を増やす。
	精 神 的 発 達	【考える子】 好きな遊びを見つけて試したり、工夫したりして夢中になって遊ぶ。	3.3	3.6	○保育者が子どもと一緒に遊び子どもの声に耳を傾けたことで、子ども一人一人の興味関心を探ることができた。 ○保育者が環境の再構成をすることで、子どもは継続して遊ぶ楽しさや実現できた達成感を味わうことができた。 ○いろいろな素材や自然物を使って考えたり、工夫したりしながら作るが増え、手先が器用になった。 ☆一人一人が伸び伸びと自己発揮することが、学校への学びの意欲へと繋がっていくと思う。 ●子どもが主体的に自分から取り出したり、取捨選択したりしながら遊べる環境づくりに努める。
充 じ多 実た 様 子な 育ニ てズ に支 援の	地 域 保 護 と 者 の 連 携	子ども一人一人の育ちを共通理解しながら、連携を図る。	3.3	3.6	○毎月の学年便りでねらいに沿った活動の写真を掲載し、保護者や地域に保育の内容を伝えることができた。 ○送迎時や懇談を通して、家庭と園の成長を伝え合うことで、子育ての願いを共有することができた。 ○保護者から保育者が子どもの発達について親身に話を聞いたり、相談に乗ったりしてもらったという声が聞けた。 ☆園の取り組みや子どもの姿などについて、第三者から伝えてもらうと有効である。 ●より保護者にも育ちが伝わるよう遊びを充実させ、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿で子どもの育ちを伝える。

【次年度に向けて】

- ・ 保護者を交えて訓練を行うことで、危機意識を共に高めていけるようにする。
- ・ 外部講師やアドバイザーに教えていただいたことを、日常生活の中で無理なく続けていけるよう計画を立てる。
- ・ 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちに耳を傾けたりする機会を増やす。
- ・ 子どもが自ら、取捨選択しながら遊べる環境づくりに努める。
- ・ 保護者と共に子どもを支える関係を作るために、共通の話題を提供したり、保育内容が具体的に伝わったりするような手立てを講じたりする。